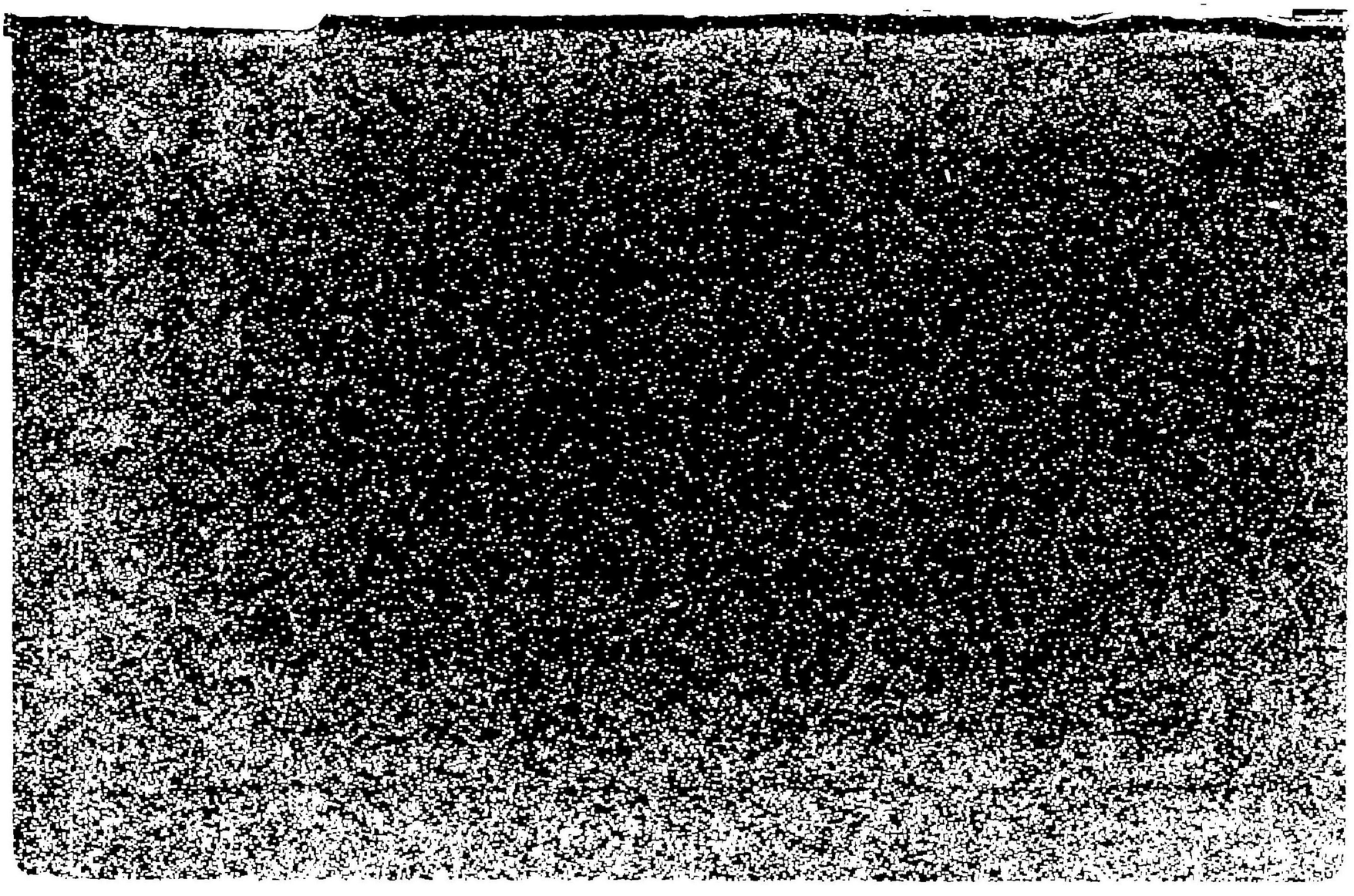
特63
412



特63
412

ちやん〳〵征伐の自序

富士山や高し、遠州灘や深し、而して其高きを爲し其深きを重るゝ何故ぞや、只分子の集合宜しきを得るゝ外ならざるなり、今や日清兵を交へ、電閃雷轟兩砲丸煙ハ是れ硝藥、戰爭已に數月、海陸に戰へば必らず日本大捷を博す、豈に帝國萬歲を唱へるを得んや而して日本が斯く大捷を博するに至るは何故ぞや、他無し、彼ゝ國大なりと雖も、離合時なく兵士其心を異にし、我ゝ國小

なりと雖も、所謂大和魂あるものありて、兵士皆お同心能く合すればあり、嗚呼一致の力其功實に大なりと謂ふべし、道人爰に一書を編し、題して ちやん〳〵征伐と云ふ、元是れ滑稽の小分子よ過ぎずと雖も、個々之を採て以て一と爲さば、或ひは諸君の勇氣を皷するに足らんか、讀人必らずしも小册子とて侮る勿れ、

時よ明治廿七年第九月中旬

骨皮道人識

○ちやん〳〵征伐

目錄

◎軍歌

○ちやん〳〵坊主　五章

○ちやん〳〵の大敗北

○ちやん〳〵退治　五章

◎緣のいお節

◎數へ唄　日本の勝利

◎仝　支那の敗北

◎仝　朝鮮の大改革

◎笑愕讀本

◎落語
○其一　一口話し
○其二　韓兵の聯合
○其三　壯士唄
○其四　李鴻章の身の上
○其五　分捕の支那物
◎阿房多羅經
◎滅茶めちや節
◎いろは短歌當世見立
○ちやん〳〵征伐目錄終

ちやん〳〵征伐

骨皮道人著

軍歌

ちやん〳〵坊主よちやん〳〵よ
但しい慈姑の化物の
あんと無ざまな其形
汝ちい中ん獣か
天窓につけた其尻尾
迚も人とい見へざるぞ
迚も人とい受取れぬ
啻に見ざるのみならず
國の風とい云ひながら

扨も間抜お其さまよ

○其　一

ちやん〳〵坊主よちやん〳〵よ

汝ぢゝ虫の獣の

天窓と尻尾取違へ

ブラ〳〵下〳〵可笑さよ

人間として交際ず

使役さるゝぞ哀れなれ

○其　三

ちやん〳〵坊主よちやん〳〵よ

汝ぢも虫か獣の

鼻持ならぬ其不潔

蛆虫に似た其身形

味噌も糞をも一所なる

犬畜生よ劣るあり

○其　四

ちやん〳〵坊主よちやん〳〵よ

汝ぢの國は其昔〳〵

但し豕の同類の

妙な處よ其尻尾

然れば何國へ至るとも

犬畜生と同様よ

但し豚の申し子の

掃溜に似た其住居

人間並の物食はず

其行ひを見るときゝ

仁義五常を元と爲し

道徳堅固と誇りしに
人いつしこの化變り
豚尾〳〵と侮られ
其有様ぞ不便なれ

○其五

ちやん〳〵坊主よちやん〳〵よ
汝ぢ畜生界に墮ち
恥外聞も打忘れ
年が年中旅稼ぎ
世もいつしこのに顚倒し
天窓に尻尾つけてより
畜生界に陷りし

腹も丸切り畜生ぢ
人面獸心なるぞかし
是が世に云ふ人非人

○ちやん〳〵の大敗北

ちやん〳〵坊主よちやん〳〵よ
汝ぢ思へや能く思へ
膽玉のなき大將ぞ
みな臆病な兵卒ぞ
みゐ古ぼけた軍艦ぞ
胸に手を當て考へよ
汝ぢの國の大將ゝ
汝ぢの國の兵卒ゝ
汝ぢの國の軍艦ゝ
汝ぢ思へや能く思へ
膽玉のおき大將や

臆病揃ひの兵卒ダ
何程ウヨ〳〵乘ことて
繪を書見本ぢや有まいし
なでう戰爭に勝得べき
見當違ひも程がある
只一打に大敗し
高陞號は沈められ
路連れ一千五百人
改名したる土左衛門

毀れ掛ッた軍艦に
博覽會の參考や
爭で戰爭の出來得べき
大恥晒しと知らざるか
然れば豐島沖合に
操江號は捕拿られ
忍ち出來た地獄行き
皆な一列一体に
跡の濟遠廣乙ハ

尻に帆のけて逃たるぞ
一も二もなく滅茶〳〵に
八九分通り殺されて
鐵砲も軍旗も分捕られ
得たるハ逃るゑ早い奴
又た兵卒も人足も
是ぞ所謂る虫の息
先を爭ひ逃るのみ
胸ゑ手を當て考へよ

夫から陸地の成歡ハ
打敗られて敗られて
お負に牙山も乘取られ
萬死の中に一生を
拔て其後ハ大將も
殘らずクウもスウも出ず
三十六計逃げべしと
汝ぢちやん的能く思へ
海で戰ひ海で負け

陸で戰ひ陸で負け
青菜に塩の其手並
モウ詫入るの外はなし
命を棒ゝ振るのみの
日本の奴隷となるぞかし
汝ぢの國を取るぞのし
强國日本の腕を見よ

○ちやん〳〵退治
ちやん〳〵坊主よちやん〳〵よ

陸海共に茶々無茶苦
モウ降參の外はなし
若も强情張るときゝ
國も殘らず奪はれて
日本ゝ遠慮會釋なく
ちやん的〳〵覺悟せよ

汝ぢゝ蒙昧無智あるぞ
日本ゝ文化の國にして
世界に秀た國あるぞ
日本に手向ふ不所存よ
無鉄砲よも程がある

○其　二

ちやん〳〵坊主よちやん〳〵よ
汝ぢは豚乃化身なり
ろくな者ゝ非ざるり

汝ぢ蒙昧能く思へ
智あり勇あり武備もあり
汝ぢ愚昧の身を以て
無鉄砲にも程がある

汝ぢゝ慈姑のお化あり
豚よ慈姑よ能く思へ

日本ハ元來神の國
勝ぬと知りつゝ手向ふハ
馬鹿氣たるよも程がある

○其　三

ちやん〳〵坊主よちやん〳〵よ
汝ぢは命知らずおり
天下無双の强國ぞ
汝ぢのやうな弱虫が
一度に押て來た迚も
迚も及ばぬ事ぢらし
馬鹿氣たるよも程がある

平氣の平左の大和魂

○其　四

ちやん〳〵坊主よちやん〳〵よ
汝ぢは阿房の素鉄邊
汝ぢハ大馬鹿大間抜
夫より引替へ日本人
智識ハ益々進歩して
獨立不羈の開化國
然るを汝ぢハ夢が夢中
喧嘩仕掛て勝ふとハ
押の强いも程がある

○其　五

ちやん〳〵坊主よ
ちやん〳〵よ
汝ぢの國い大あるも
迂奴の大僕何かせん
汝ぢの國の頭數
縱ひ他國よりも多くとも
無氣力愚鈍何かせん
日本の爲に皆殺し
さるゝも一向知らずして

手向ふ心ぞ笑止あれ

◎緣かいあ節

○朝鮮

神功皇后豐臣氏。むかし打たる朝鮮い。
今度日本よ從ふも。素より續いた緣かいあ。

○閔泳駿

金氏ほろぼし先づよしと。思ふ惡事の露顯して。
遂よ自ら遠島よ。なつた閔泳駿かいあ。

○大鳥公使

大院君をゞ擁護して。送る京城日本兵。

俄に向ふ韓兵を打たは大鳥君かいな。

○日清の戰爭

海に軍艦陸に兵。互ひに入れる力瘤。
日本と支那の戰爭も。元ゝ朝鮮の乱かいな。

○電信不通

朝鮮内地の變亂に。又も不通の電信ゝ。
これも寇爲す敵の業。船で知らせる便かいな。

○豐島の大勝利

豐島海にゝ浪花艦。向ふ清艦打はらひ。
操江號をゞ擒にし。沈めた運送船かいな。

○松崎大尉

成歡攻るその時に。軍功一の松崎氏。
多くの兵を指揮しつゝ。渡る安城川かいな。

○日本の强兵

勝ゞ勝ほど勇み立ち。喇叭の聲と諸共に。
敵を目掛て何處までも。進む日本の軍かいな。

○大和魂

敵の降參するまでゝ。飽まで貫く大和魂。
陸と海との挾み擊。進む海陸軍かいな。

○日本刀

扨も兵士の小氣味よく。敵の大將組み伏て。
美事よ刎た生首い。鋭き日本の劍かいな。

○大島少將

大島少將敵兵を。物の美事に打据へて。
四邊まばゆき日の御旗。輝く牙山の邊かいな。

○新聞紙

樣子如何にと鶴首で。待よ待たる折も折り。
新聞号外威勢よく。又も勝利の文かいな。

○李鴻章

目的違ふた李鴻章。數度の戰爭皆まけて。

小田原評議も區々よ。もめる內輪の論かいな。

○支那の弱兵

命おしみの支那兵い。出るかと思や直逃る。
軍器兵粮の置去りい。是もお負の損かいな。

○芥子坊主

軍する氣で出たけれど。素より弱い芥子坊主。
鉄砲聞て目を廻す。夫でも兵隊さんかいな。

◎數へ唄　日本の勝利

○一ッとせ——人の智識も進歩して。武よも富み。今を盛りの
開化國。日の出國。

○二ッとせ——　ふだん鍛へた腕前を。飽までも。見せる即ち此ときぞ。進めよや。

○三ッとせ——　美事よ敵兵打はらひ。此上へ。だん〳〵攻入れ北京まで。攻て入れ。

○四ッとせ——　世よる名高き日本國。兵強く。向ふ處よ敵へあし。腕自慢。

○五ッとせ——　いつも手際あ勝いくさ。威勢よく。世界に輝く日の御旗。翩飜と。

○六ッとせ——　むごい樣だが塵殺し。芥子坊主。寇爲すからよは是非がない。棄ておけぬ。

○七ッとせ——　何のちやん〳〵坊主めが。小癪あり。縱ひ何万來たとても。驚かぬ。

○八ッとせ——　遣れよ遣れ〳〵何處までも。進み行き。敵の降參する迄へ。打拂へ。

○九ッとせ——　此處や彼處よちやん〳〵を。擒りて。珠數よ繫いだ小氣味よさ。心地よさ。

○十とせ——　とう〳〵軍よ勝おふせ。勇ましく。目出度凱歌の愉快さよ。大愉快。

◎同　く　支那の敗北

○一ッとせ——　卑怯未練と云へれても。何が扨て。命大事と逃

出す。弱虫め

○二ッとせ——　平常未熟の腕ゆゑよ。造作なく。軍に負るも無理ハない。知れた事。

○三ッとせ——　皆な揃ふた意氣地なし。碌でなし。どうして日本に勝てやうぞ。負け通し。

○四ッとせ——　止せバ宜いのに芥子坊主。馬鹿者め。脆く散るのも知らずして。無鉄砲。

○五ッとせ——　いつも戰に負を取り。打敗れ。耻の上塗り笑ふべし。笑ふべし。

○六ッとせ——　向ふ見ずよも程がある。夢が夢中。日本に手向ふ大膽さ。耻知らず。

○七ッとせ——　南京米食て漸くよ。虫の息。命つないだ弱武者よ。其哀れ。

○八ッとせ——　やつれ果たる李鴻章。腕を組み。今ハ後悔臍を噛む。下司の智惠。

○九ッとせ——　此處を先途と防げども。弱卒の。力及ばず又れ敗る。負續け。

○十とせ——　どう〳〵負たる支那國は。大閉口。末世末代わらひ草。恥晒し。

◎同　く　朝鮮の大改革

○一ッとせ——　一際目よ立つ改革ハ。〳〵。みんな日本のお蔭あり。〳〵。

○二ッとせ——　不開化姑息ハ今更よ。〳〵。夢のさめたる如くあり。〳〵。

○三ッとせ——　磨けバ光の出る玉と〳〵。見込んだ日本の義侠心。〳〵。

○四ッとせ——　餘儀ない事とハ云ひながら。〳〵。支那を便りし口惜さよ。〳〵。

○五ッとせ——　いつよ變はらぬ心切ハ。〳〵。勿論日本の外よあし。〳〵。

○六ッとせ——　無辜の囚人赦免する。〳〵。是れゞ開化の事始じめ。〳〵。

○七ッとせ——　永の年月苦るしみし。〳〵。民も始じめて自由の身。〳〵。

○八ッとせ——　大和魂とハ知ずして。〳〵。譬よ思ひし不甲斐あさ。〳〵。

○九ッとせ——　心柄ゆゑ是非あくも。〳〵。閔氏一族島流がし。〳〵。

○十とせ——　當時日の出の日本をバ。〳〵。親として居りや安樂よ。〳〵。

◎笑愕讀本

○強次郎さん、あなたに、彼のちやん的を、見た事が、ありますか、はてね、ちやん的と に、何の事で、ありますの、是はしたり、あなたも、さとりの悪い、ちやん的と云のに、アノソレ、ちやん〳〵、坊主のことであります よ、成ほど彼のちやん〳〵、坊主あら、幾度も見た事があります、隨分まぬけじみた、奴で に、ありませんか、さうして何故よ、彼奴の事を、ちやん〳〵、坊主と、云ふので、ありま

せうか、彼れに貧乏で、三度の飯も、ちやん〳〵と、食ふことが出來ず、着物も、人間あみの物を、着ずよ、年ヶ年中、ちやん〳〵、子を、着て居るから、夫でちやん〳〵、坊主と、云ふので、ありませう、又た彼奴の、天窓よに、豚の尻尾の様あ、毛を一本、ダラリと、ブラ下て居るから、一名を、豚尾とも申しますの、鳥と云ても、宜いで、ありませうか、左様さねへ、誰が見ても、阿房じみて居るか

ら、鳥と云ても、差支へい、ありますまい、何よしても、人間の縁い、離れて居ますね、

○彼の、ちやん〳〵坊主の、國も、昔しい、孔子だの、孟子だの、と云ふ、聖人や、賢人の、あつた國で、ありますが、世の中が、だん〳〵と化變りて、いつの間よか、今のやうよ、櫨木同樣、退歩りをして、國の政治向きも、滅茶〳〵乱脈よ、味噌も糞も、一所よあり、夫よつれて、人間も、カラキシ、阿房、馬鹿、頓痴奇、間ぬけ、ひよつとと、大べら

坊、野ッ方、活智なし、イヤハヤ、埒口のない、丸で、蛆虫の寄合、見た樣な、有樣と、ありました、この姿で、もう二三十年も、續きましたならば、ちやん〳〵坊主い、みんな他所の國へ、出稼ぎをして、國い又た、昔しの通り、カラにあるで、ありませう、

○兵太郎さん、あなたい、今度の戰爭よ、お出よあつて、ちやん〳〵坊主の、首級を、凡そ幾個ほど、お取よ、ありましたか、ハイ、彼の國の兵隊い、皆な活智のない、腰ぬけ計

りで、ありますから、此方の、根氣さへ續けゞ、首級ハ幾等でも、望み次第よ、取ます、私しハ、大抵毎日、二三百人ッゝハ、チョン切りました、尤も、其中にハ、大將らしい奴も、交つて居ます、なるほど夫ハ、大層お手

柄で、ありました、さうして、其チョン切た首ハ、皆どうおさい、ましたか、ハイ、あおたも、浮存の通り彼の天窓よ、一本ッゝ、南瓜の蔓のやうよ、長い尻尾が、附て居ますから、其尻尾と、尻尾とを、繋ぎ合せて、片ッ端から、人足よかつがせ、ました、

○彼の、ちやん〳〵坊主よハ、力が、ないと云ひますが、何故で、ありませうか、夫ハ平常よ、滋養分のおい、南京米を、食て居るからで、ありませう、

○支那の、李鴻章と云ふ人は、全体日本よ、勝つもりで、戰爭を、おッ初めましたけれども、其目算が、ガラリと外れて、ノベッノベタラよ、負てばかり、居ますから、王様も、癇癪を起し、眼の繰玉を、ヒンむいで、この間抜野郎め、口の先ばかり、旨いことを云ッて、其有様は何事ぞ、貴様の爲めよ、自己まで、赤恥をかゝねばならぬ、ナゼ、其様な不間な事をするか、此大馬鹿の三太郎の、耄碌親父め、そんな氣の利かない、ヘナチョコ

野郎よ、勳章あんぞは、遣ておけぬとて、黄環章とか云ふ、羽織を、ぬがせました、尤も、ちやん〳〵坊主よ、云はせると、熱いから、脱だのだと、云ひますが、夫は全く、まけおしみと云ふもので、其實は矢ッ張り、位が下つたので、ありません、

○又た、李鴻章は、氣狂よなり、袁世凱と云ふ奴は、首を縊りて、死んださうで、ありますが、本統でありませうか、左様、私しも、そんな風説を、聞ましたが、多分本統で、あ

りませう、唐人の寐言でさへも、チイ〳〵パア〳〵で、サッパり分からぬものを、李鴻章が、氣がふれたら、餘っぽど奇妙奇手列な事を、云ふでありませう、ナント聞て見たいものでい、ありませぬか。

○成歡や、牙山で、日本よ、滅茶〳〵にまけて、滅茶〳〵よ追まくられた、ちやん〳〵坊主い、初め、此處へ來るときよい、船で、連て來てもらふたのよ、軍よまけて、山奥へ、這〳〵の体で、逃たさうでありますが、宜い氣

味で有ます、併し、士地不案内の、山奥へ、逃げ込んでい、第一食ふ物もなし、餘ほど、困つたでありませう、左樣さ、それゆゑ、皆お俄かよ、泥坊とあるりて、無茶苦茶よ、惡事をはたらくので、其居まわりの者い、どの位迷惑をしたか、知れません、又た、其中で、大將よおつて居た、葉志超と云ふ奴い、女の姿とありて、ヤット、命から〳〵、國許へ、逃て歸つたさうですが、志超馬鹿よして居るでい、ありませぬか

○ちやん〳〵　坊主を、退治るにゝ、私しゝ、鉄砲も刀も、あんまも、入まいと思ひます、へゝー、夫ゝ又た、ナゼでありますか、ナニ私しが、若しも、ちやん〳〵　坊主を、退治るあらば、長い竹の先へ、とりもちを附て、それを以て、ちやん〳〵　坊主の、頭の毛へ、ク〳〵〳〵と巻きつけて、百人でも、千人でも、一万人でも、一所よ生捕て仕舞ひます、あるほど夫も、宜いお考へでゝ、有ますが、どりもちを見たら、ちやん〳〵　坊主の方で、

逃て寄りつかないで、ありませう、夫ゝナゼですか、ハイ、ちやん〳〵　坊主ゝ、已よ、とりもち桶へ、足を突ッこんで、とり〳〵して居ますから、

◎落話

○其一　一口話

大將伊在宅ですか「イヤ是は……先づ此方へ進み給へ「ありがたい、大將を名乗かければ、之よ應ずるに進み給への語を以てするあぞゝ有がたいね、今やちやん〳〵　坊主を打ッ拂ッて、大日本

帝國萬歳を唱へるの愉々快々たるゝ、恰かも蚊遣火を以て蚊群を一掃し、然る後に冷豆腐で杯一を試みるが如きの思ひあり、イヤ斯の如き大愉快を感ずるは、啻に拙者一人のみならず、大日本帝國四千有餘万の同胞、彼の石炭や鉄砲を密賣する人面獸心の賣國奴を除くの外ゝ、皆その大勝利を欣祝せざる者ゝなし、已に大日本帝國中、到る處斯の如き傾向で、人相會し相對すれば、其の談必らず日清の事件に渉らざるゝなく、又た日本の大捷を口にせざる者なしと云ふ

有樣であるから、僕も負んき氣になつて、日清の一口話しをとしらへた、一寸聞て呉れ給へ「君の話しゝイヤまゴッ〳〵して、丸で弗函の中へ劍術の道具でも投り込だやうな盥梅敷だ、その口調で一口話しをんぞを作爲へたからッて、どうせ碌な事ゝ出來まいが、マア何も放樂だ、どんな事が出來たか饒舌ッて見給へ「さう輕蔑したものまあらずサ、君まして一たび之を聞ゝ勿論與市兵衛たるや必せりだ、先づその第一と云のが朝鮮の兵士も今度愈々日本兵に聯合してち

やん〳〵　坊主を打拂ふ事よおつたとゝ韓臣
ある上出來
評よ曰く甚だまづくして意味通ぜずかね「夫ぢ
やア是ゝどうだ
朝鮮の弊政改革も最早や八九分通り成就し
たから内閣員ゝ日本の使節に向ひイザ御韓
廷下されい
評よ曰く是も甚だ不出來よして意味通じ難し
だね「然ら〻是ゝどうだ
此節でゝモウ朝鮮へ行ても日本の錢がズン

〳〵通用するさうだ「銅貨左樣さうで
是も右同斷だ如何にもまづい「然ら〻是ゝ
ちやん〳〵　坊主ゝ皆お膳玉がおいから鉄砲
の音を聞た計りでも直よズドンと尻餅を突
くさうだ
是も矢張り旨くおいね「矢ッ張旨くおいか、夫ぢ
やア今度のゝどうだ、
ちやん〳〵　坊主ゝ日本兵の顔を見ると直よ
へゝ張て仕舞うどサ「夫れやア腰抜だから
是やア旨いだらう「處が同じく旨くないね「然ら

ゞ是ハ、

李鴻章が熱に浮されて頻りよ及物三昧をするさうだ「夫ハ兜器（狂氣）

相變らずダメあり〳〵「然らハ是ハ

松崎大尉が安城渡を渡るときちやん〳〵坊主ハ古風な軍法で川を堰止たけれども矢張り滅茶負よあつた「それやァ其筈よ堰でハ事を仕損じる

もう止し給へ〳〵、イクラ聞ても皆な面白くあい、夫よ君のハ落が古くていけ無い、何でも斯う

云ふ一口話しあゞ〳〵云ふものハ、落の新しいのを宜しとするものだから「イヤさら君のやうに片つ端から打とおしてハ困る、夫ぢやァもう一ツ極々上等天下無類と云ふのを聞て呉れ給へ

日本兵が成歡より進んで牙山よ居ちやん

〈坊主までを小氣味よく打拂ッたとき民家の鷄までが之を祝してお結構〈

と云ふのいとうだ、之をしも上出來と謂はずんば、何をか上出來と謂はんやだ……エヽ君どうだ旨かんべエ「さうサ是やアどうよか朝らしく聞へる、

○其二　韓兵の聯合

今度朝鮮も愈々日本の勸告に隨ッて弊政の改革も充分に行き届き清兵若し去らずんば日本の兵力を借て退去せしむと云ふ位の勢ひで逐に朝鮮の兵士も日本兵と共に支那兵を追ッ拂う事はおつたさうだが日本へ已に兵事に熟練して居るし朝鮮へまだ戰爭に不慣だからヒョットすると日本の號令も聞入れずに行き成り駈出して仕舞うやうなことがありへせんか知ら「イヤ行き成り驅出す位の勢ひがあれば至極結構だが迚もさうへ行まい」「ナニさうで無からうと思ふ」「ナせね「デモ韓兵急と云ふ事があるから

○其三　壯士唄

例の晩酌よ眼瞼聊か微紅を帶びッ、運動かた〳〵近所をブラ付て居ると彼の編笠を被ッた二三の壯士さんが、威勢よく壯士唄を謠ッて居るから、一寸立留ッて聞て見ると、あるほど中々面白い

壯士「諸君僕が一ッちやん〳〵征伐日本大勝利チウのを謠ッて聞せるから若し大和魂を振起させやうと云ふ人があるならバ一冊買て呉れ給へ

○ちやん〳〵征伐の唄

行けや行け皆お押し出せ支那征伐に。四百餘州と誇りッ、國い可ありに廣けれど。第一人間カラ馬鹿で理も非も知らざる滅茶苦茶。井蛙の管見我獨り「利口ぶりたる可笑しさよ。然るに世間で云通り。馬鹿ゝ附くべき藥なく。盲目滅法恥知ず。暗ゝ鉄砲當てなしに「日本に手向ふ不心得。命すてるも夢が夢中。已よ海戰陸戰に幾度となく負ながら。性懲もなく遣て來る。追ふても〳〵遣て來る。之を譬へて云は

うなら「恰かも糞蠅の如くなり。こんな奴等を棄おくん。世に進歩する妨げぞ。此方乃根氣乃續くだけ。打つて〳〵打乃めし四臆万人根を絶し。南京ペキンん無論お り。國況一切日本へ「ふんだくるのも面白し。愉ウ快ぢやし〳〵

壯士「それから今度ん、ちやん〳〵坊主大へコ垂の唄と云ふのです、是も氣ょ入た人があつたら ば買て呉れ給へ、

○ちやん〳〵坊主大へコ垂の唄

逃よ逃げ逃げよ逃げ〳〵皆な諸共ょ命取られちや堪らぬい命あつての物種ぞ縱ひ弱いと云ひりやうと縱ひ間抜と笑ひりよが日本ょや迚も叶はない「首を切られちや命おくし。若しも命ぬおいときん。何ぬ樂しみあるべき。や況して我々お互ひに故郷を跡に此處へ出て「影辨慶でん居るものゝ。鐵砲持てぬ居るものゝ。其實

人足同様よ。一日僅りの日當で。ろれも碌々もらいずに。物をも食ずよ腹減し。犬にも劣ッた今の仕誼「こんな詰らぬ事いない。我身ながらも愛想つき。何乃因果り應報り。是でも岡目で見るときハ「兵士と見へるが不思議あり。何んでも搆はぬ此上ハ。命の助のる工夫して。日本の兵士と見たならは。三十六計にげるべし。それで彼是れ云ふならバ「兵隊止にして歸るのみ。

ろれが氣樂で結句よハ。ナント皆さん爾ぢやないか。給金もらへは主なれど。給金取ら無きや他人なり。さう斯う云ふ中まさ來さぞ「早く逃げべし駈るべし。大負ぢや〳〵。

客「モシ〳〵大層面白いが、夫ハ何程で賣て貰へます

壯士「左樣、日本大勝利の方ハ實戰ですゞちやん〳〵坊主へコ亜の方あら只の一戰よ負て置きませう、

○其四　李鴻章の身の上

伊藤隠居さん貴方ハさうして毎日新聞を見て お出よるから日清の戰爭あんゞの事ハ發端から お茶の粉よして呑で被爲入いませうが此の節の景況ハ如何ですゞ益々日本の大勝利でせうね「イヤモウ大勝利の大勝利で無いのと云ッて ちやん〳〵坊主ハもう大滅茶〳〵の形あしよ 此分でもう二三ゲ月も續かうものあら彼方の 兵隊ハ皆あ打殺されて北京の眞中へ日本の旗 をおッ建て四百餘州ハ殘らず日本の所有地よ

あるだらう「へーさうですか宜氣味ですね尤も 日本ハ昔しから何國と戰爭をしたからッて負け た事のないと云ふ强い國ですから成ほど日本 よ攻込れちやアちやん〳〵坊主も大閉口でせ うよ然けれども彼のちやん〳〵坊主も餘ッぽ ど大べら坊ぢやアありませんかイクラ强情を 張たッて詰り負るよやア極ッて居るのだから 今の中よ早く謝罪て降參するが宜ぢやアあり ませんか本統よ馬鹿ほど仕樣のない者ハあり ませんへ全体彼の李鴻章とか頭痛將とか云

ふ奴ア其以前ハ何かから這上ッた男でせう自己の考へよやア昔しハ極く下手糞の鍛冶屋の食潰しか何かだらうと思ひます「ハヲねどう云ふ譯で鍛冶屋の食潰しと思ふのだね「それでも爲る事が皆あトンチンカンですものチ

○其五　分捕の支那物

今度ちやん〳〵坊主から日本へ分捕た支那物を陣列よあつたと云ふので見物人が毎日〳〵山のやうよ押掛るさうだ「さうか夫ハ愉快〳〵僕も是非一見せざるを得ずだが然して其分捕

品ハ何と何だらう「さうサ僕もまだ見あいのだから何樣な物だか知らないが先づ想像を以て考へる處でハ第一棒と旗が多いだらう一寸マア勘定した處でも彼の國の棒の種類が、乱棒、大べら棒、ちやん〳〵棒、ノッペラ棒、泥棒、貧棒、木偶の棒、かつたい棒、死棒、逃棒サ、夫から旗の種類が、狂旗、頓痴旗、乱痴旗、大騒旗、までつ旗、夫から頑皮、ひよつと皮、てんて皮、又負の綱、大法螺、とんだ古刀、凡槍、ちよこ麿、恥鍵、困弓、當枠、どう鐘、凡そ先づ此位な物だらう「イヤ其外まもう一ッあるだら

う「ム、さう〳〵無鉄砲

◎阿房多羅經

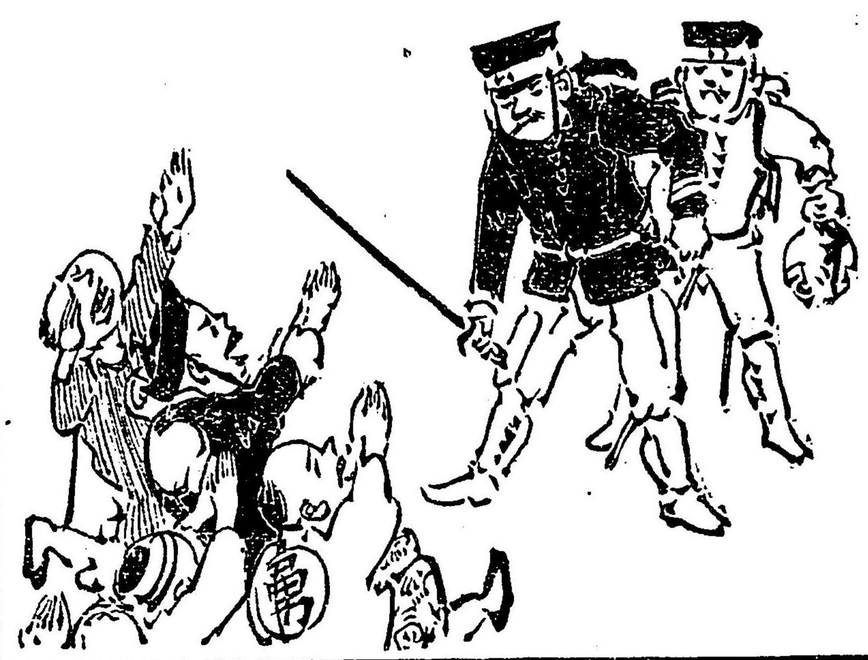
エ、、――恐れ――あがら勿体あがら最一ッお負よ憚かりあがら（ポン〳〵〳〵）申し上ます阿房多羅文句が、何が何よと尋ねて見たら、口から出任せ、上腮下腮ぶッつかり次第だ、お氣よ障ッたら眞平〳〵（ポン〳〵〳〵）頃ハ明治の廿七年、明治と云ふ字ハ明かよ治まる、大極上々頗ぶる上等、天下泰平五穀豊熟、家内安全息災延命、武運長久子孫繁榮、文武百官士農工商、上から

下まで下から上まで揃ひも揃ッた今を盛りの文明國とハ外よハ無いぞへ日本ばかりだ（ポン〳〵〳〵）富國強兵天下よ敵あき旭の旗を知ッてか知らずか夫とも無鉄砲か血迷ふたのだか耄碌したのか、皆さんぢ存じのちやん〳〵坊主が命取られる事も夢中あら、國の潰れる事も滅茶で、勿論豚あら目先の利かぬハ無理も無けれど、日本と互格よ戰爭をせうとハ餘ッぽど大馬鹿（ポン〳〵〳〵）夫もその筈國の総たる李鴻章ハ狂人、これよ隨ふ豚尾天窓ハ慾張一方

理も非も分らず、其又た下よ居る四臆万とか地獄自慢とか、大勢のちやん〳〵ゝ、面こそ人間に似てゝ居れども、腹の中見りや畜生も同然、チイ〳〵パア〳〵、ワン〳〵と云はぬがまだしも見附ものだ(ポク〳〵〳〵)こんな奴らの人だか犬だか豚だか牛だかサッパリ分らぬ、蛆虫同様の者を集めて飴賣見た様な大將が先立ち、サア來い續けと繰出した處が、道普請や川普請た事が違ッて、鐵砲の丸やら大砲の丸やら、ズドン〳〵と天窓へ飛で來て、一ッ中れバスッテンコロリ

と命が無くなる、此奴アたまらぬ斯うしちや居られぬ、先方を打つより打たれぬ用心、ソラ逃げヤレ逃げ(ポク〳〵〳〵)縦ひ腰ぬけ間抜と云はりよが、縦ひ弱虫意愚痴あしと笑はりよが、命あつての物種だんべエ、權兵衛もソラ逃げ八兵衛もヤレ逃げ、逃げるも三十六計の中だと、妙な處へ枸子定規の軍法かつぎ出し、鉄砲なんぞハイクラでも出來駈るよ邪魔だよ、軍旗あんぞハイクラでも出來ると、恥も外聞もそんな事た構はぬ、大將も兵卒も先を爭つてスタコラドッコイショと一生懸

命、逃るよ追つく辛抱ハ
出來ぜい、鞠んだ處が瘤
ぢや死ない、鉢合せ位ハ
平氣の皮だと、ブル〳〵
〳〵蒟蒻のお化か、
瘤ふるひよ合併したよ
よ、震へあがらよ駈出す
ばかりだ（ポク〳〵〳〵〳〵
それゆゑ日本よ手向ひ
したとて、大佛の脊中よ



蚊ほども利かない、第一豊嶋の海戰ハどうだよ
軍艦ハ捕られる運送船ハ沈められる、ちやん〳〵
ハ千五百丸で土左備門、今頃ら地獄で何と云ひ
譯、定めし閻魔よお目玉頂戴、針の山へでもおッ
投あげられ、泣の涙で鬼に使はれ、鉄の棒で尻で
も打れて居るだろ（ポク〳〵〳〵〳〵）その次や成
歡牙山の戰ひ、止せバ宜のよチョッカヒ出した
ので是も滅茶〳〵々、此處が此方の十八番だと例
の逃出し、晩れて命を取られちや事だと、命から
〳〵逃げてハ見たれど、矢ッ張り死去たハ〳〵

〈死體殆んど山を築いて何万何千、まだ〈
其上浮丁寧よも、軍の道具を皆あ投出し、日本へ
夫をば分捕されたも恥とゝ思はず、それからと
ちらゝ怖い〈と姿を隱して影も形もサッパ
り見せない、大方此奴等ゝ餓へ死んだか首でも
縊ッたか、イヤ〈それ程の意愚痴ゝあいから、
相も變らずノッ〈〈空腹かゝへて泣て
居るだろ(ポク〈〈)馬鹿よ飲せる薬があ
いとゝ旨く云たよ、コレサよく聞け、ちやん〈
坊主よ、早く謝罪りや苦しい思ひも痛い思ひも

せずに濟むのだいつまで強情張たとてダメだ
ぞ、天地乾坤倒よおつても、手前の豚尾が尻へ附
ても、迚も日本よ勝てやう筈がない、アー困ッタ
馬鹿野郎だナーア、此跡の文句が聞たけりやア
地獄へ行て閻魔に聞へエ、先づ此位で阿房多羅
文句ゝお仕舞だア此大馬鹿の屁名チヨコ野郎
メー(ポク〈〈〈〈)

◎滅茶めちや節

○日本の兵隊さんゝ餘ッぽど勇しい。國の爲め
あら厭はぬナッて進み行く滅茶めちや。チヤ

カラカチヤン〳〵。

○日本の大和魂い餘ッぽど類が無い。一人ゑ十人たしかだチって切まくる滅茶めちや。チヤカラカチヤン〳〵。

○日本の軍法ハ餘ッぽど怖いだろ。一人二人ハ雨倒チって地雷火で滅茶めちや。チヤカラカチヤン〳〵。

○日本の兵制ハ餘ッぽど堅いもの。兵士ハ澤山まだあるチって繰り出す滅茶めちや。チヤカラカチヤン〳〵。

○日本の軍略ハ餘ッぽど旨いもの。至る處ゑ敵なしチって攻め入る滅茶めちや。チヤカラカチヤン〳〵。

○大島陸軍少將ハ餘ッぽど強い人。卑怯未練ハさらひだチって兵を進む滅茶めちや。チヤカラカチヤン〳〵。

○朝鮮の大院君ハ餘ッぽどゑらひ人。政治の腕前見て呉れチって改革する滅茶めちや。チヤカラカチヤン〳〵。

○朝鮮の東學黨ハ餘ッぽど利口もの。日本が出

て來たチフて逃け居る。滅茶めちや。チヤカラ
カチヤン〳〵。
○支那の分捕品ハ餘ッぽど數がある。是ハ勝利
の印だチフて陳列する滅茶めちや。チヤカラ
カチヤン〳〵。
○支那の李鴻章ハ餘ッぽど老ばれた。彼ぢや政
治も取れまいチフて人が笑ふ滅茶めちや。チ
ヤカラカチヤン〳〵。
○支那の李鴻章ハ餘ッぽど困りもの。遂に神經
狂ふたチフて云ふ事が滅茶めちや。チヤカラ

カチヤン〳〵。
○支那の李鴻章ハ餘ッぽど大病だ。ソラ又た氷
だ持て來いチフて天窓へ滅茶めちや。チヤカ
ラカチヤン〳〵。
○支那の李鴻章ハ餘ッぽど馬鹿な奴。負ても矢
ッ張り遣れ〳〵チフて强情張る滅茶めちや
チヤカラカチヤン〳〵。
○支那の葉志超ハ餘ッぽど弱い奴。女の形でも
搆ハぬチフて逃歸る滅茶めちや。チヤカラカ
チヤン〳〵。

○支那の政治の取方餘ッぽど間違ひたア。逃た大將感心チフて褒美を出す滅茶めちや。チヤカラチヤン〳〵。

○弱いちやん〳〵坊主ハ餘ッぽど妙な奴。號令なんぞハ待たないチフて逃出す滅茶めちやチヤカラカチヤン〳〵。

○支那の陸軍ハ餘ッぽど無茶なもの。逃よが隱りよが搆ハぬチフて號令まで滅茶めちや。チヤカラカチヤン〳〵。

○支那のちやん〳〵坊主ハ餘ッぽど意氣地な

し。足の早いが勝のだチフて直逃る滅茶めちや。チヤカラカチヤン〳〵。

○支那のちやん〳〵坊主ハ餘ッぽど間抜だよう。天窓の毛が邪魔だアチフで卷つける滅茶めちや。チヤカラカチヤン〳〵。

○逃出したちやん〳〵坊主ハ餘ッぽど面白い腹が減てハ駈れぬチフで粥を啜る滅茶めちや。チヤカラカチヤン〳〵。

◎いろは短歌當世見立

○犬も歩けバ棒ニあたる　（高陞號の沈沒）

○論より證據
○花より團子
○憎まれ者ハ世ヨ憚かる
○骨折損の草臥もふけ
○屁をひつて尻つぼめる
○年よりの冷水
○塵積ッて山となる
○俳義者ヨ子澤山
○ぬす人の畫寐
○瑠璃も玻璃も照せバ分る

（日本大勝利の分捕品）
（野ヾ氣ゐ朝鮮人）
（東學黨）
（袁世凱）
（支那政府）
（閔泳駿）
（軍費の献納）
（勉强の新聞よく賣る）
（人面獸心の密賣）
（分捕の裁判）

○老てハ子ヨ從ふ
○われ鍋ヨも綴蓋
○かつたいの瘡うらみ
○葵のずゐから天井見る
○旅ハ路連れ世は情
○良藥ハ口ヨ苦し
○惣領の甚六
○月夜ヨ釜ぬく
○念ヨハ念を入れ
○泣ッ面ヨ蜂

（破損の濟遠號）
（支那の內閣員）
（支那の內輪もめ）
（李鴻章の見當違ひ）
（支那の潰走兵）
（朝鮮の改革）
（李鴻章）
（支那潰走兵の泥坊）
（出版物の檢閲）
（支那の洪水）

○樂あれば苦あり　（支那の腰拔兵士）
○無理が通れば道理が引込む　（支那の負惜み）
○嘘から出たまこと　（袁世凱の自殺）
○芋の煮たも淦存じあいか　（支那の親玉）
○咽元過ぐれば熱さ忘れる　（平壤へ出て來た支那兵）
○鬼に鉄棒　（日本の海陸軍）
○臭い物よりの蓋　（支那の宣戰令）
○安物買の錢うしなひ　（廣乙號）
○負るが勝　（朝鮮國）
○藝は身を助ける　（日本兵）

○文が遣たし書手が持ず　（居殘のちやん〳〵）
○子が三界枷　（日本と朝鮮）
○得手よ帆を揚げ　（新聞社の特派員）
○亭主の好き赤ぞぼし　（支那の頑固）
○天窓隱して尻隱さぬ　（支那の軍法）
○三遍廻ッて煙草よしよ　（要塞兵）
○聞て極樂見て地獄　（支那の滅茶負け）
○油だん大敵　（牙山を奪へる）
○目の上の瘤　（支那より於る佛國）
○身から出た錆　（李鴻章の勳章剝奪）

○知らぬがほとけ
○縁ゝ異あもの味あもの
○貧乏ひまあし
○門前の小僧習ゝぬ經を讀む
○脊よ腹ゝ替られぬ
○粹ゝ身を食ふ
○京の夢大坂の夢

ちやん〳〵征伐終

（詰る處ゝ支那の降伏）
（日韓の聯合隊）
（出稼ぎの支那人）
（子供までちやん〳〵を笑ふ）
（渤海へよげこんだ支那の軍艦）
（葉志超の艶聞）
（戰地へ出張の兵士）

明治廿七年九月廿日印刷
明治廿七年九月廿七日發行　定價金八錢

著作者　浅草區須賀町十九番地　西森武城
發行者　京橋區南傳馬町一丁目十番地　辻本九兵衛
發行者　仝區仝町十四番地　西村富次郎
印刷者　日本橋區新和泉町一番地　瀧川三代太郎
發賣者　京橋區南傳馬町一丁目十番地　尚古堂
發賣者　仝仝町十四番地　弘文館
印刷所　日本橋區新和泉町一番地　今古堂活版所

內務省檢閲濟
版權所有

府下特別大賣捌所

淺草區三好町	大川屋錠吉
本石町二丁目	上田屋書店
日本橋通三丁目	金櫻堂
竇山町三丁目	辻岡屋書店
馬喰町二丁目	山口屋書店
通油町	藤岡屋
日本橋區新大阪町鶴喜	書店
日本橋區若松町	榊原友吉
橘町一丁目	松榮堂
室町三丁目	杉本書店
大傳馬二丁目	長島支店

府下特別大賣捌所

南傳馬町二丁目	目黑支店
南紺屋町	薫志堂
南傳馬町二丁目	嵩山堂
京橋區大鋸町	青野友三郎
横山町一丁目	出雲寺
京橋區北槇町	鳳林館
神田表神保町	東京堂
日本橋通四丁目	東雲堂
日本橋區堺町	東生鉄五郎
神田裏神保町	井上藤吉
日本橋區堺町	伊藤倉三

西森武城君編輯

日清交戰實記

實價金十五錢
郵送稅金六錢

鈴木熊次郎君編圖

日清韓三國地圖

極細密圖彩色入大形
實價金十五錢
郵送稅金六錢

陸軍歩兵大佐大島貞恭君序
牛台山人鈴木純一郎君著作

清國征伐軍歌

實價金五錢
郵送稅府二錢

發賣元 東京京橋區南傳馬町一丁目十四番地 弘文館

中州眞勢先生遺意
門人龍山谷川先生著

周易本筮指南

實價金二十錢
郵送稅金六錢

井上鶴洲先生著

易學發蒙

實價金二十五錢
郵送稅金八錢

中州眞勢先生遺意
門人龍山谷川先生著

易學階梯

附言
附

實價金二十錢
郵送稅金六錢

發賣元
東京京橋區南傳馬町一丁目十番地 辻本尙古堂
東京京橋區南傳馬町一丁目十四番地 弘文館

特63
412

074367-000-2

特63-412

ちゃんちゃん征伐

骨皮道人／著

M27
CEI-1619